

【様式】

令和2年度 学校マネジメントシート

学校名（南伊勢高校 度会校舎）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○自らの力で自分の将来を切り開き、地域社会に貢献するひとを育成する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○自立に向け、基本的な生活習慣と基礎学力を身につけた生徒 ○自分の夢を明確にし、希望する進路に向け、自ら努力し続ける生徒 ○自他の命を尊重し、差別をなくす実践力と高い自己肯定感を有する生徒
	ありたい 教職員像	○共通認識のもと、生徒に寄り添い、生徒の個性を最大限伸ばさせる教職員 ○小規模校・校舎制の利点を活かす新しい発想を創造し、活力ある教育活動を展開する教職員 ○地域と共に歩み、地域から信頼される学校づくりを行う教職員 ○総勤務時間縮減を意識し、ワークライフバランスを大切にする教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><生徒・保護者> 基礎学力の定着。規律ある充実した学校生活。希望進路の実現。</p> <p><地域社会> 将来的に、地元地域で生活し、地域社会に貢献できる人材の育成。</p> <p><中学校> 学習面、生活面での中学校からの指導の継続。将来自立できるための力の育成。取組内容の中学生及びその保護者への浸透。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
		<p><保護者> 学力向上。確かな進路保障。 学校との信頼関係。</p> <p><町・町教育委員会> 地元地域の活性化を担う人材育成。 生徒の進路保障。</p> <p><地元企業等> 将来的に、地元地域に勤め、地域社会を支えてくれる人材の育成。</p> <p><地域活動団体> 生徒による地域の活性化への貢献。</p>	<p><保護者> 学校と連携した家庭での生活指導・学習活動への協力。</p> <p><町・町教育委員会> 地元中学校との連携を円滑に進めるための協力。地元への就職支援。</p> <p><地元企業等> インターンシップ等教育活動への協力。 地元企業の採用増加。</p> <p><地域活動団体> 生徒が活躍できる多様な機会の提供。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した遠隔授業の取組や、「いじめ」の解消率100%を含む安全安心な学びの環境づくりの取組等は評価できる。生徒の学力保障と進路保障のために、今後もさらに、ICTを活用した授業力向上に努めるとともに、安全安心な学びの環境整備に努める必要がある。 働きやすい職場環境づくりについては、成果指標も大切だが、数値にとらわれ過ぎず、教職員のメンタルヘルスを重視し、気持ちに余裕を持って働ける職場づくりに努められたい。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>多様な生徒が在籍するなかで、基礎基本の定着を大切にした教育の実践と生徒一人ひとりへのきめ細かな指導により、地域から一定の評価を得ている。</p> <p>また、福祉活動や「出前図書館」など地域と連携した取組を推進している。</p> <p>今後、少人数教育を行う中で、生徒のより幅広い教科・科目の受講や学校の枠を越えた交流等、さまざまな教育機会の充実につながるよう、ICTを用いた遠隔授業等の取組を進める必要がある。</p>	

学校 運営等	<p>地域に密着した県立高校として、地域への貢献も視野に入れ、ボランティア活動・地域行事への参加等さまざまな取組を行い、地域から一定の評価を得ている。</p> <p>今後さらに、学校の取組を地域の中学生やその保護者に浸透させ、入学者を確保していく必要がある。</p> <p>また、南勢校舎と共に一つの学校としての機能を強化していく必要がある。</p>
-----------	---

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自他の命を尊重し、社会的自立に向けて基礎基本の学力と差別をなくす実践力を身につけさせるとともに、高い自己肯定感を持ち、自ら考え適切に行動できる生徒を育成する。 ・ 個々の能力・適性に応じて、自らの将来を主体的に考え、希望進路の実現に向けて積極的に取り組む生徒を育成する。 ・ 基本的な生活習慣や社会的規律・礼儀をしっかりと身につけ、心身ともに健康な生徒を育成する。 ・ 二校舎を取り巻く自然環境や文化を活かした教育活動を行うとともに、合同の部活動等を通じて生徒の交流を促進する。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の多様な主体と協働し、地域からより信頼され、選ばれる学校づくりを推進する。 ・ 南勢校舎と共に一つの学校としての機能を強化していく。 ・ 業務改善を積極的に行い、勤務時間の縮減に努めることにより、より質の高い教育を目指すとともに、ワークライフバランスに配慮しながら教員の一層の資質向上に取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導等の充実	<p>(1) 基礎学力の定着を図り、基本的な学習習慣を確立させる。</p> <p>【活動指標】日頃から授業規律の徹底化を図り、学び直し教材を利用した学習を行うとともに、基礎力診断テストを年3回(1・2年生)実施する。全教員による補習を実施する。</p> <p>【成果指標】基礎力診断テストによる基礎・基本養成レベル(D3-)の生徒が10%未満となり、上級判定となる生徒が増える。</p> <p>(2) 校則にかなった服装を徹底させ、規律を守り、落ち着いた生徒を育成し、落ち着いた学校を浸透させる。</p> <p>【活動指標】月1回程度、頭服指導を行い、また日常からチェック制度を維持し、指導を行う。</p> <p>【成果指標】生徒は自己管理能力を高め、高校生としてふさわしい行動・身なりを身につける。</p> <p>(3) 生徒が安全に安心して学校生活を送れるよう教育相談体制の充実に努めるとともに、生徒はもちろん、保護者・地域と連携し、いじめを許さない学校づくりに取り組む。</p> <p>【活動指標】いじめ防止に関わるアンケートを学期に1回行い、日常から生徒指導、教育相談の機会を設ける。</p> <p>【成果指標】生徒は小さな問題でも教員に相談することができ、安心して学校生活を送れることができる。</p> <p>(4) 交通マナーを守る生徒を育成するとともに、交通事故がなくなるように取り組む。</p> <p>【活動指標】自転車安全指導を企画し、外部から講師を招いて安全教育を行う。また月に1週間程度、街頭での交通指導を行う。</p> <p>【成果指標】生徒に交通安全の意識が高まり、登下校中の危険が</p>	<p>(1) 日頃から授業規律の取組、少人数補習等を実施。ただし、基礎力診断テストの成果指標には未到達。</p> <p>(2) 担任と連携し継続した頭服指導を実施。大きな乱れもなく、落ち着いている。</p> <p>(3) ・「いじめ」に対するきめ細かな個別対応を実施。小さな事象も「いじめ」であると認識し、解消。(いじめの認知件数 8、解消率100%) ・「いじめ」を許さない生徒の主体的な活動を支援。(11/2～6「ピンクシャツ運動」)</p> <p>(4) ・交通安全・生活安全の拠点校として引き続き度会町全体での取組を実施。(12/1 度会小学校出前授業:、対象1、4年生) ・登校指導、集会を通じた安全指導を実施。(自転車の交通事故1件、自損事故2件)</p>	◎

	減少する。また、交通ルールを遵守する意識が高まる。		
遠隔授業等の推進	(1)南勢校舎との間で、少人数の講座においても多様な意見や考えに触れたり、協働して学習したりすることを目指して、ICTを用いた遠隔授業等に取り組む。 【活動指標】両校舎間で遠隔授業を年5回程度実施するとともに、生徒会等の遠隔交流を実施する。 【成果指標】将来の生徒の多様な科目履修の保障につながる。	(1) ・遠隔授業を2回実施。 10/14、15 度会「英語会話(2年生)」⇔南勢(ALT) ・臨時休業中(4、5月)に、オンラインHRやオンライン授業を複数回実施。 ・両校舎に遠隔授業にも活用できるテレビ会議システムを導入。	
キャリア教育の充実	(1)社会人として必要な態度・マナーを修得させ、将来にわたり社会への貢献を考えさせる。また、自らの適性を理解し、自己肯定感を持つとともに、生きることの尊さや生命のかけがえなさを理解し、自他の生命を尊重する姿勢を育てる。 【活動指標】進路実現に向けて、進路ガイダンス、手厚い個別指導を行う。 【成果指標】就職内定、公務員試験合格、進学志望校合格 100%	(1) ・学校斡旋就職内定及び、進学志望校合格を100%達成。 ・3年生対象進路ガイダンス(1回)、2年生対象企業見学等(3回)、1年生対象進路説明会等(2回)実施。	※

改善課題

- ・基礎学力が十分でない生徒が多く、次年度も引き続き基礎学力定着の取組を進める。
- ・登校時の立哨指導や、関係機関と連携した交通安全教育の充実に引き続き努める。
- ・ICT活用の推進とともに、南勢校舎との遠隔授業や交流を深める。

(2) 学校運営等

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組	(1)教職員一人ひとりの人権意識をさらに向上させる。 【活動指標】教職員対象の人権講演会を年1回以上実施する。 【成果指標】教職員一人ひとりにより、より充実した人権教育が実践される。 (2)教職員一人ひとりが、特別支援教育の観点から、生徒の実態に即した対応が出来るようにする。 【活動指標】特別支援教育研修会を年1回実施する。 【成果指標】生徒の困り感に対して、特別支援の視点から柔軟な支援がなされる。 (3)防災・防犯等に係る非常時の対応力の強化を図る。 【活動指標】防災訓練等を年2回実施する。 【成果指標】生徒の安全・安心な学校生活が保障される。	(1) 教職員を対象としたオンライン人権研修を実施。(2/15~3/11) (2) 特別支援教育に関する教職員研修会を実施。(8/20) 講師: 大友正明 県発達障害支援員 (3) ・防災講話を実施。(8/24) 講師: 准校長 ・伊勢消防署と連携した防災訓練を実施。(12/24)	◎
情報提供による信頼の構築	(1)学校の教育活動や生徒の取組等について、積極的に情報を発信する。 【活動指標】 ・ホームページによる情報提供を適宜行う。 ・授業公開、学校見学会等を年2回実施する。 【成果指標】 ・ホームページが最新の情報を得るツールとして定着する。	(1) ・ホームページのブログを通じて常時情報を発信。 ・授業公開を実施。(9/24) ・学校見学会を実施。(9/12、19)	

	・中学生やその保護者等に学校の様子が正確に伝わる。		
働きやすい職場環境づくり	<p>(1)総勤務時間の縮減に努める。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設定した日の定時に退校できた教職員の割合 100% ・計画した日に休養日を設定できた部活動の割合 100% ・放課後に開催し 60 分以内に終了した会議の割合 100% <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人当たりの月平均時間外労働時間 13 時間/月 ・月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人 ・年 360 時間を超える時間外労働者の人数 0人 ・1人当たりの年間休暇取得日数 21 日/年 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外労働時間の縮減及び、休暇取得日数の増加の推進に努め、月1日定時退校日の設定をはじめ、8月は毎日を定時退校日とする強化月間の取組を実施。 ・定時退校日の定時に退校できた教職員の割合 90.5% ・計画的に休養日を設定できた部活動の割合 100% ・放課後に開催し 60 分以内に終了した会議の割合 100% ・1人当たりの月平均時間外労働時間 6.9 時間/月 ・月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数0人 ・年 360 時間を超える時間外労働者の人数0人 ・1人当たりの年間休暇取得日数 16.0 日/年 <p>(2月末現在)</p>	※

改善課題

- ・ 人権研修や特別支援教育研修をより一層充実し、教職員ひとり一人の資質向上に努める。
- ・ 授業公開や学校見学会等の充実、広報活動の推進により、学校理解をさらに進める必要がある。
- ・ 引き続き、総勤務時間の縮減を図り、業務の精選・改善等に努める。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校ではゲーム性を持たせた学習ソフト等、ICT教材が充実している。高校でもICTを活用した授業を積極的に取り入れて、基礎学力の定着化を進める必要がある。校種を越えたICT授業の見学を行うなど、授業改善に努められたい。 ・ Web会議システムに慣れることは、社会人になるための必要なスキルになる。今後も、進路指導の場等で遠隔会議システムを活用する必要がある。 ・ 総勤務時間削減の取組については、放課後の会議を60分以内に終了するなど、評価できる。今後も継続して取り組まれない。
---------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎学力の定着を目指し、ICTの活用とともに、全教員による補習等の組織的な取組を推進します。 ・ 服装頭髪や挨拶等、基本的な生活習慣の向上を目指した指導や、交通安全指導の推進に、全教職員で継続して取り組みます。また、「いじめ」のない安全安心な学校づくりのため、生徒が主体的に「いじめ防止」に取り組む環境の提供に努めます。 ・ 進路希望実現のため、進学等に対応した課外等を継続するとともに、遠隔会議システム等のICTを積極的に活用し、計画的なキャリア教育を推進します。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒のわずかな変化も見逃さないよう、教職員一人ひとりの意識や感度を高める取組を充実させます。 ・ 度会校舎活性化協議会との協働により、広報活動に係る取組を一層充実させます。 ・ 学校見学会の内容を検証しつつ、早期からのPR活動や、教員や生徒による小中学校等での出前授業等、学校の情報や魅力を発信する機会を充実させます。